



株主・投資家の皆様へ

Creativity &
Challenge

平成16年7月期(第43期)事業報告書

平成15年8月1日から平成16年7月31日まで

JASDAQ

証券コード：6267



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

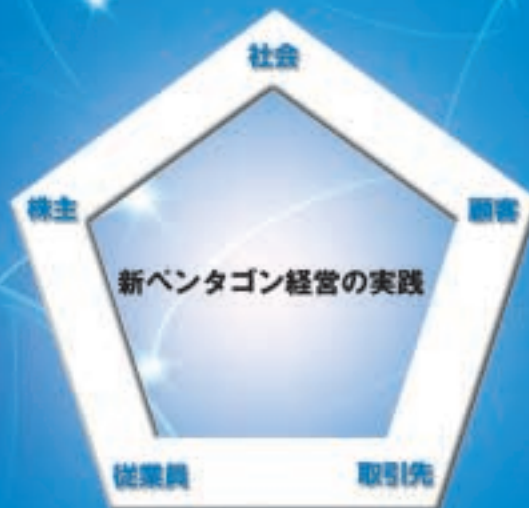
新中期経営計画

新生ゼネラルパッカー（株）の社会的基盤固めの時期

企業ビジョン

「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現

- 倫理・道徳や法令を遵守する企業であるとともに、地域社会への貢献や環境保護における役割を認識し、企業市民としての社会的責任を果たしていきます。



- 適時・適正な情報開示や積極的なIR活動により、株主・投資家との信頼関係を高め、企業（株主）価値の最大化を目指していきます。

- 顧客視点で起動し付加価値の高い「商品」で応えます。
- 顧客の満足度向上を通じて包装文化の発展に寄与していきます。

- 経営理念を具体的な行動で実現でき、信頼され共感される「人づくり」を目指します。
- 能力・実績が納得感ある評価・処遇に結びつき、物心両面からやりがいを感じる体制づくりを目指します。

- 品質、価格（コスト）面など、切磋琢磨の関係を通じ信頼関係を築きながら、相互に向上し、共存共栄していきます。

◆ 経営ビジョン

1. ドライ物向けのロータリー式自動包装機No.1企業
2. 知的労働特化型企業
3. 包装システムの市場創造型トータルプランナー

◆ 経営目標 平成19年7月期（第46期）

1. 売上高経常利益率 10%以上
2. ROA（総資本経常利益率） 10%以上
3. ROE（株主資本当期純利益率） 10%以上
4. 利益生産性（全従業員一人当たり経常利益）4百万円以上

◆ 業績目標 平成19年7月期（第46期）

1. 売上高 5,000百万円以上
2. 営業利益 495百万円以上
3. 経常利益 500百万円以上
4. 当期純利益 295百万円以上

株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび当社第43期（平成15年8月1日から平成16年7月31日まで）の決算を行いましたので、営業の概況等をご報告申し上げます。



◆当期業績の総括

当期における包装機械業界は、企業の設備投資は一部回復の兆しも見られましたが、全体として設備投資意欲は低調のまま推移しており、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続きました。

このような経営環境の中で、当社は積極的な営業活動を行うとともに、収益力の強化施策を推進し、前期に引き続き増収増益を果たすことができました。

◆新中期経営計画がスタート

当社は、おかげさまで昨年12月にJASDAQ市場に上場を果たすことができました。新しく生まれ変わり、未来に向けて新たにスタートを切るという意味から、平成17年7月期から平成19年7月期における「新生第一次中期経営計画」を策定しました。

上場企業としての社会的責務を果たしながら、永続的な安定成長を持続していくために、新生ゼネラルパッカー（株）の社会的基盤固めの時期と位置付け、基本戦略としてこれまで取り組んできた「ドライ分野における包装システムのオンリーワン企業を目指すためのペンタゴン経営」をより強力に推進するとともに、次の課題に対処してまいります。

- ① 差別化集中戦略（高機能を求めるトップ企業に、高い機能を持った製品を提供）を強化し、ドライ分野のオンリーワン企業を目指す
 - ② 独創的で差別化した新機種を開発し、高収益機種種のラインナップを図る
 - ③ 安全でクレームの発生しない高品質の包装システムを販売するとともに、献身的なサービスの提供を図る
 - ④ 社会的責任を果たすため、コンプライアンス・リスクマネジメント体制の強化を図る
 - ⑤ 少数精鋭主義を実践し、成長スピードを高めるための人材確保、人材育成の強化を図る
 - ⑥ 各利害関係者の満足度向上、共存共栄のための行動を実践する以上に掲げた事項を中心にして、あらゆる施策を推進し、一層の業績の向上と企業の健全性に努めてまいります。
- 株主の皆様におかれましては、今後とも、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年10月

代表取締役社長 原 淳

営業概況

◆業績全般の概況

当社の営業活動におきましては、新機種を開発して市場へ投入する一方、東京と名古屋で開催された二つの展示会への出展による見込み客の拡大と新機種の拡販、重点対象市場への迅速な水平展開等、積極的な営業活動を推進してまいりました。また、業績先行管理の徹底による計画経営の推進及びコストダウンや生産性の向上等を図り、収益力の強化に努めてまいりました。

この結果、当期の売上高は、前期に引き続きチャック付袋対応機種の販売が好調に推移するとともに、ガス充填自動包装機の新機種販売の寄与もあり、3,983百万円（前期比4.0%増）となりました。また、展示会出展費用の発生等により販売費及び一般管理費が増加しましたが、高粗利益機種の販売台数増加により利益率の増加を達成できたこともあり、経常利益は412百万円（前期比19.5%増）、当期純利益は249百万円（前期比26.4%増）となりました。

◆製品の状況

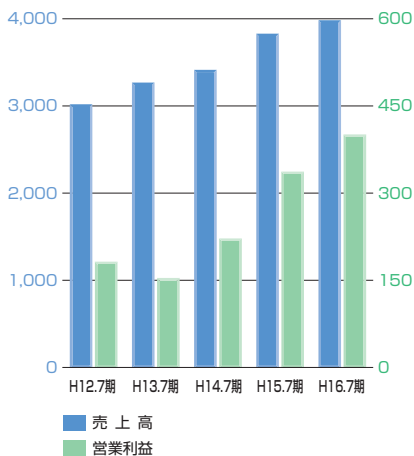
前期に新機種として、チャック付ガゼット袋用給袋自動包装機350ST型、チャック付スタンドパウチ用製袋自動包装機2700C-ST型、青果用給袋自動包装機VM6型等の新機種を完成させましたが、当期におきましても、ガゼット袋・スタンド袋・チャック付四方袋兼用給袋自動包装機700FZ型、ダブルパック対応ガス充填自動包装機GS33型の新機種を完成させました。

また、シングルロータリーガス充填システムを開発し、給袋自動包装機・製袋自動包装機へ搭載することで、製品のラインナップ強化も図りました。

当期は、低価格機種を含めた既存機種の販売台数が回復するとともに、新機種販売も寄与したことから、機械合計の販売台数は181台（前期比7台増）となりました。

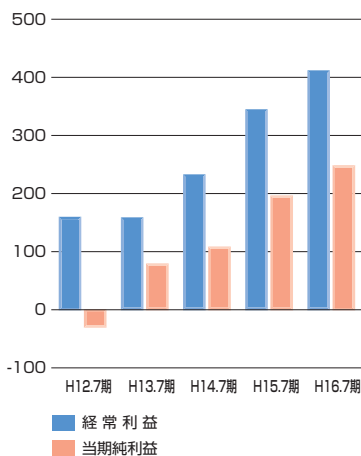
■ 売上高・営業利益

（単位：百万円）



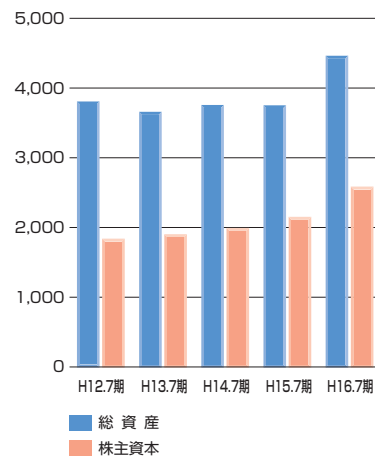
■ 経常利益・当期純利益

（単位：百万円）



■ 総資産・株主資本

（単位：百万円）



◆品目別売上高の状況

給袋自動包装機は、チャック付袋対応機種を中心に健康食品分野向けの販売が好調であったことから、売上高は1,945百万円（前期比2.3%増）となりました。

製袋自動包装機は、高価格機種の販売は堅調に推移し、販売台数は増加しましたが、前期に比べて大型包装システム用機種の実績がなかったことから、売上高は679百万円（前期比8.3%減）となりました。

ガス充填自動包装機は、前期に比べて販売台数は減少しましたが、従来機種より高価格の新機種10台の実績で平均売価が増加したため、売上高は319百万円（前期比20.9%増）となりました。

この結果、機械合計の売上高は2,944百万円（前期比1.3%増）となり、包装関連機器等は、少額機器の受注活動の強化で販売台数が増加したため、売上高は508百万円（前期比8.0%増）となりました。

また、保守消耗部品その他は、高額の保守案件の受注件数が増加したため、売上高は529百万円（前期比17.5%増）となりました。

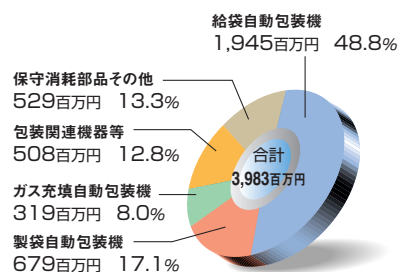
◆次期の見通し

今後の見通しにつきましては、包装機械業界は、個人消費の力強い回復にはまだ時間がかかることが予想されることから、最大需要先の食品部門の設備投資意欲は慎重姿勢が当面続くものと予想されます。

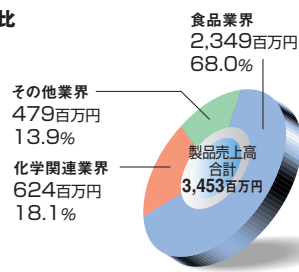
このような状況下で、当社といたしましては、開発体制を強化して新機種開発のスピードアップに努めるとともに、営業体制の強化と輸出ルートの拡大に取り組み、より一層の業績の向上を図ってまいります。

以上により、次期の業績予想といたしましては、売上高4,300百万円（当期比8.0%増）、経常利益430百万円（当期比4.2%増）、当期純利益254百万円（当期比2.0%増）を予想しております。

■品目別売上高構成比



■最終ユーザー業界別売上高構成比



(注) 1. 製品売上高合計は、給袋自動包装機、製袋自動包装機、ガス充填自動包装機、包装関連機器等の売上高合計であります。
 2. 食品業界には、精米・製氷・製粉・錠剤等を含めております。
 3. 化学関連業界には、製薬・化粧品業界のほか、健康食品関連についても含めております。
 4. その他業界は、機械業界、受託包装業界、種苗業界、ペットフード業界等であります。



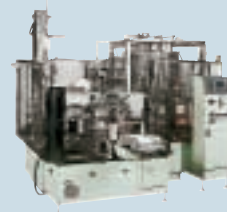
給袋自動包装機

粉末から固形物まであらゆる充填物（米菓、キャンデー、ビスケット、スナック食品、穀類、豆類、ふりかけ、パン粉、各種海産物、小麦粉、きな粉、だんご粉、うま味調味料、粉末薬品、機械・電気等の部品、その他袋詰可能な物）に対応できます。また、対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに対応が可能です。



Products Line-up

取扱製品



ガス充填自動包装機

不活性ガス封入（花かつお、コーヒー、バターピーナッツ、お茶、ビーフジャーキー、カットチーズ、生パン粉等のガス充填包装対象物）により商品のシェルフライフを延長させることが可能です。



製袋自動包装機

充填物は、給袋自動包装機と同様ですが、小袋の高速包装から大袋用包装（精米、業務用スパゲティー、顆粒洗剤、うま味調味料、輸液バッグ等）までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



包装関連機器

当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱うことで、幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能です。





Topics

トピックス



GP-700FZ型



二回の包装機械展示会に出展

当期は、平成15年10月に東京（東京ビックサイト）で開催された「2003日本国際包装機械展」と平成16年4月に名古屋（ポートメッセなごや）で開催された「2004中部パック」の二回の展示会に参加し、当社の独自技術を活用した新機種を展示、紹介させていただきました。

今回のメインとして展示した新開発のGP-700FZ型は、ガゼット袋・スタンド袋・チャック付四方袋など、様々な袋形態に自由に対応できる世界初のマルチ給袋自動包装機として、その機能を強くアピールしました。

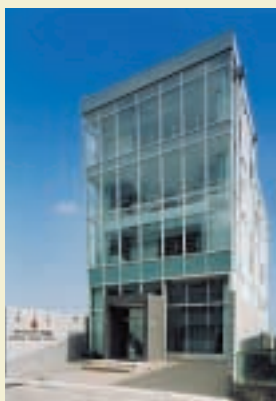
今後も食品業界を中心に、さらなる拡販に取り組んでまいります。

新社屋が完成

平成16年8月、本社南隣に新社屋が完成しました。

当社屋は、システム営業力の強化を目的として、展示ショールームを併設しています。また、3階には大会議室を設け、上場後初めての株主総会場にも利用しました。

なお、建設資金につきましては、平成15年12月の上場時に調達した資金を充当しています。



本社正面玄関を改装

ご来社いただく皆様が、明るくてより利用しやすい玄関とするために、本社正面玄関のホールの改装を行いました。

また、玄関前には「21世紀の人間生活をより豊かに未来あるものに導きたいという会社の使命」をテーマとしたモニュメントを設置し、ご来社いただいたお客様や本社前を通りすぎる方々に当社を深く印象づけます。



財務諸表

■ 貸借対照表

科 目	当期(第43期) 平成16年7月31日現在	前期(第42期) 平成15年7月31日現在
資産の部		
流動資産	3,807,073	3,212,280
現金及び預金	1,534,295	1,113,364
受取手形	251,999	670,931
売掛金	1,238,963	425,615
たな卸資産	684,773	768,550
未収入金	64,601	205,526
その他	32,440	29,809
貸倒引当金	—	△ 1,518
固定資産	655,933	539,744
● 有形固定資産	482,058	381,584
建物	222,628	234,219
土地	135,882	135,882
建設仮勘定	112,505	—
その他	11,041	11,482
無形固定資産	2,497	2,822
投資その他の資産	171,377	155,337
資産合計	4,463,007	3,752,024

POINT 1

当期末の有形固定資産は、本社南隣の新社屋建設（平成16年8月完成）による建設仮勘定112百万円を計上したことから、前期末比100百万円の増加となりました。

(単位：千円)

科 目	当期(第43期) 平成16年7月31日現在	前期(第42期) 平成15年7月31日現在
負債の部		
流動負債	1,591,791	1,324,432
支払手形	784,590	738,698
買掛金	334,453	181,668
賞与引当金	23,186	22,541
その他	449,561	381,524
固定負債	283,972	274,062
退職給付引当金	27,837	28,312
役員退職慰労引当金	256,135	245,750
負債合計	1,875,763	1,598,494
資本の部		
資本金	251,577	155,000
資本剰余金	282,269	135,000
利益剰余金	2,045,244	1,862,631
その他有価証券評価差額金	8,808	897
自己株式	△ 655	—
● 資本合計	2,587,244	2,153,529
負債・資本合計	4,463,007	3,752,024

POINT 2

資本合計は、前期末比433百万円の増加となりました。これは主として、上場時の資金調達（235百万円）と当期末処分利益の増加によるものであります。

■ 損益計算書

(単位：千円)

科 目	当期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年7月31日まで	前期(第42期) 平成14年8月1日から 平成15年7月31日まで
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	3,983,212	3,829,059
売上高	3,983,212	3,829,059
営業費用	3,581,697	3,491,187
売上原価	2,800,304	2,724,073
販売費及び一般管理費	781,393	767,113
営業利益	401,515	337,871
営業外損益の部		
営業外収益	43,461	9,022
営業外費用	32,317	1,501
● 経常利益	412,660	345,393
特別損益の部		
特別利益	6,403	—
特別損失	—	1,469
税引前当期純利益	419,064	343,923
法人税、住民税及び事業税	182,950	155,183
法人税等調整額	△ 12,964	△ 8,308
当期純利益	249,078	197,049
前期繰越利益	103,151	54,582
中間配当額	17,985	—
当期末処分利益	334,244	251,631

POINT 3

経常利益は、前期比19.5%増加しました。これは主として、売上高が前期比4.0%増加した中で、コストダウン努力により売上総利益率が0.8%改善されたこと及び販売費及び一般管理費が前期比1.9%増加にとどまったことによるものであります。

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当期(第43期) 平成15年8月1日から 平成16年7月31日まで	前期(第42期) 平成14年8月1日から 平成15年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	309,911	△ 192,535
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 102,289	△ 6,583
財務活動によるキャッシュ・フロー	213,309	△ 103,480
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	420,931	△ 302,599
現金及び現金同等物の期首残高	1,113,364	1,415,963
現金及び現金同等物の期末残高	1,534,295	1,113,364

■ 利益処分

(単位：千円)

科 目	当期(第43期) 平成16年7月期	前期(第42期) 平成15年7月期
当期末処分利益	334,244	251,631
合計	334,244	251,631
これを次のとおり処分します。		
利益配当金	35,967	3,480
	(1株につき8円)	(1株につき60円)
役員賞与金	35,000	45,000
(うち監査役)	(1,000)	(1,500)
別途積立金	100,000	100,000
次期繰越利益	163,277	103,151

(注) 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書及び利益処分の記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

■ 会社概要 (平成16年7月31日現在)

商 号 ゼネラルパッカー株式会社
 英 文 社 名 GENERAL PACKER CO., LTD.
 設 立 昭和36年12月
 資 本 金 2億5,157万7千円
 事 業 内 容 各種自動包装機・荷造用機械及び
 周辺装置の製造・販売・修理、
 それに附帯する一切の業務
 従 業 員 数 95名
 本 社 ・ 工 場 〒481-8601
 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地
 Tel. (0568)23-3111(代)
 Fax. (0568)22-3222



本 社

東 京 営 業 部 〒101-0045
 (平成16年9月21日現在) 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8
 神田木原ビル4F
 Tel. (03)3256-3891(代)
 Fax. (03)3256-3893

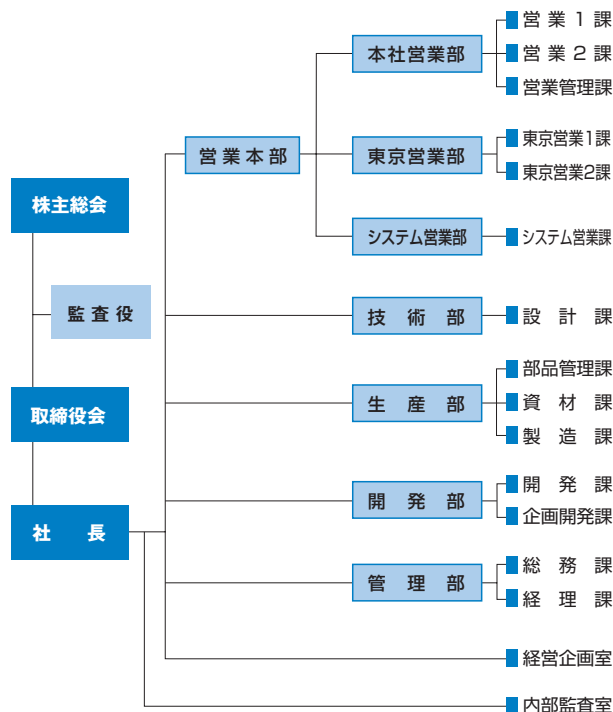


東京営業部

■ 取締役及び監査役 (平成16年10月26日現在)

代表取締役社長	原 淳	
専務取締役	池 澤 晃	管理部長
常務取締役	安 江 禎 治	技術部長
常務取締役	倉 知 泰 助	生産部長
取 締 役	島 末 孝 法	開発部長
取 締 役	梅 森 輝 信	営業本部長 兼システム営業部長
常勤監査役	山 本 勝 巳	
監 査 役	村 橋 泰 志	
監 査 役	西 浦 道 明	

■ 組織図 (平成16年9月21日現在)



■ 株式の状況 (平成16年7月31日現在)

会社が発行する株式の総数 14,000,000株
 発行済株式総数 4,497,000株
 株主数 460名

大株主

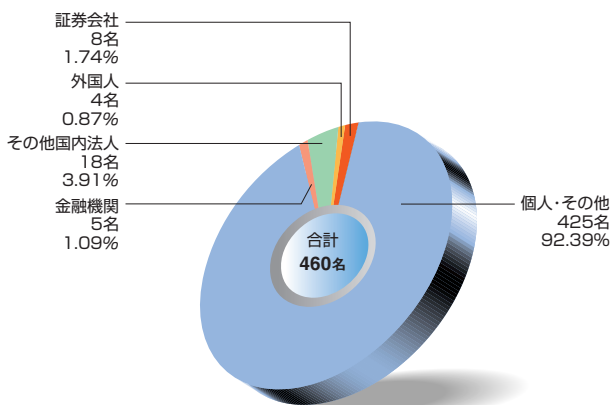
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルバックー従業員持株会	526,000	11.7
高野 まさ子	500,000	11.1
原 淳	364,000	8.1
バンクオブバミューダガンジーリミテッド アトランティスジャパングロースファンド	260,000	5.7
りそなキャピタル株式会社	199,000	4.4
株式会社りそな銀行	196,000	4.3
高野 季久美	182,000	4.0
田中 かな	182,000	4.0

■ 株主メモ

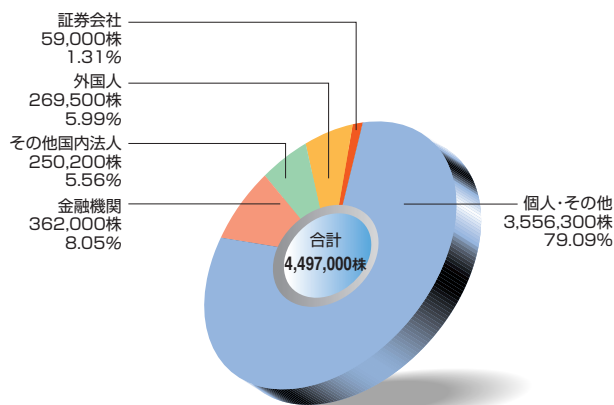
決算期 7月31日
 定時株主総会 10月
 基準日 7月31日
 その他あらかじめ公告する一定の日
 配当金受領株主確定日 利益配当金 7月31日
 中間配当金 1月31日
 名義書換代理人 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
 日本証券代行株式会社
 同事務取扱場所 〒460-0008
 名古屋市中区栄三丁目3番17号
 日本証券代行株式会社 名古屋支店
 Tel. (052)261-1781(代)
 同 取 次 所 日本証券代行株式会社本支店
 公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

■ 所有者別分布状況

株主数構成比



株式数構成比



ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、
新着情報、会社情報、商品情報、
IR情報等、様々な情報をご提供しています。
今後も皆様にお役立ていただけるよう
掲載情報の一層の充実を
図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

本社・工場

〒481-8601 愛知県西春日井郡西春町大字宇福寺字神明65番地
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893



環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。